



シクラメン

分類：サクラソウ科シクラメン属 塊茎(球根)をもつ多年草
学名：*Cyclamen persicum* Mill.
別名：カガリビバナ(篝火花)、ブタノマンジュウ(豚の饅頭)
原産地：地中海東部



特徴：地中海東部からその周辺の島に自生する原種、ベルシカム(*Cyclamen perusicum*)から改良された園芸品種です。原生地は典型的な地中海性気候で、冬は温暖で雨が多く、夏は乾燥します。日本とはまるで逆です。しかし、品種改良が積み重ねられ、日本の気候条件に適した品種が作られ、冬には毎年欠かせない人気鉢花となっています。花の形をかがり火にたとえてカガリビバナと呼ばれたり、球根の形からブタノマンジュウともよばれます。花色も赤、紫、ピンク、白など様々なものがでていますし、花の形もふちが波打ってフリル状になったものもあります。また、葉にもさまざまな模様や色合いがあり、観賞価値が高いです。上手に夏越しさえできれば2~3年は花が楽しめます。

株の選び方：鉢花を購入して育てるのが一般的ですが、葉が多く、花にシミのないもの、株のバランスのよいものを選びます。

置き場所：室内の窓辺など、日当たりがよく涼しいところが良いです。花を長持ちさせるためには、夜間5~10くらいの涼しいところがよく、逆に暖房が入っている部屋にしていると花茎や葉が伸びすぎて倒れてしまいます。日当たりが悪いと花色が悪くなり、小さなつぼみが咲かずに枯れてしまうことがあります。シクラメンの葉は日光の当たる方向に向く性質がありますので、いつも同じ場所においていると株が一方に片よってしまいます。一週間に1回程度鉢の向きを反対方向に変えましょう。(鉢回し)

夏は屋外の半日陰に置きます。夏の直射日光を当てると、葉がくすんだり、硬化したりします。また、梅雨どきや秋の長雨には当てないようにします。

土：水はけの良い土。用土は赤玉6、腐葉土4の配合土など。

水やり：土の表面が乾いたら、病害虫予防のため、新芽や葉にかからないよう株もとにそっと与えます。ただし、密植されているシクラメンには難しいので、鉢底から水を吸わせる底面給水鉢であれば、受け皿に水がなくなったら足すだけで適度な水分を補給できます。ただ、底面給水鉢の場合は、1ヶ月に1度ぐらいは、老廃物や濃くなった肥料を洗い流すために、受け皿をはずして、土の表面からたっぷり水を与え、鉢底から水が流れでるくらいやりましょう。

施肥：開花中は2週間に1回ほど、チッソ分の少ない1000倍液肥を追い肥しますが、底面給水鉢の水に混ぜても良いです。

その他の管理：花が枯れてきたら花茎の付け根からねじり取ります。そのままにしていると新しい花が咲いてこないで、こまめに摘みましょう。また、黄色くなった葉は病害虫の原因になるので、同じく茎の付け根からねじりとります。購入してしばらくすると、株の中心の葉が大きくなってバランスが崩れますし、小さなつぼみが葉の下に隠れて日が当たらず、枯れてしまうこともあります。中心の葉を外側に引っ張ると、外側の葉に引っかかって株の中心分に空間ができます。(葉組み) また同時に倒れかけた花茎を中心部に集めて形を整えるのも良いでしょう。

夏越しの仕方：雨のあたらない涼しい半日陰におき、鉢の表面が乾いたらたっぷり水をやって越す方法と、花後に葉が枯れてしまったら、そのまま涼しい場所で鉢ごと乾かして休眠させ、秋に球根を掘り上げ、植え替える方法とがあります。

病害虫：灰色かび病、斑点病、ダニ、根こぶ線虫に注意。